

増毛町立増毛中学校 1 日防災学校実施報告

● 増毛町立増毛中学校のコンセプト

- ・訓練を行うことで、集団で行動し、素早く安全に避難できるようにする。
- ・地震と津波に対処するために必要な判断や知識を身に付ける。
- ・自らの生命を安全に守り、公助・共助の意識の向上を図る。

● 時間割

3 時限 避難訓練(全校生徒：行事)

4 時限 南西沖地震紙芝居「あの坂へいそげ」(全校生徒：行事)

〔連携・協力〕

増毛町消防署、留萌警察署、北海道防災教育アドバイザー三浦 浩

① 避難訓練 1



② 避難訓練 2



③ 南西沖地震紙芝居 1



④ 南西沖地震紙芝居 2



平成30年度 避難訓練実施計画（兼 1日防災学校）

平成30年 8月16日

増毛町立増毛中学校

総務統括部

1. ねらい

- (1) 訓練を行うことで、集団で行動し、素早く安全に避難できるようにする。
- (2) 地震と津波に対処するために必要な判断や知識を身に付ける。
- (3) 自らの生命を安全に守り、公助・共助の意識の向上を図る。

2. 日 時

平成30年 9月 3日（月） 10:40～12:25

※雨天の場合は、体育館に避難、消防長講話後、語り部集会

3. 当日の流れ

- (1) 体育館設営 9:35～
(教員椅子20, 来校者椅子20, マイク～米澤, 視聴覚機器～伊藤)
- (2) 避難訓練開始～見晴町駐車場へ 10:40～
- (3) 消防長講話 11:00～
(司会～教頭, 生徒会お礼の言葉～中村)
- (4) 帰 校 11:10～
- (5) 語り部集会～中学校体育館 11:35～
(全校集会隊形で椅子持ち, 整列指導～高橋, 司会～役場職員,
生徒会お礼の言葉～中村)

4. 対 象

増毛中学校 生徒 91名 増毛中学校職員 21名
(幼稚園, 小学校も合同で行います)

5. 内 容

避難訓練～地震の想定及び地震による津波の想定

- (1) 想定 地震発生 日本海沖 震度5強 大津波警報発令
- (2) 避難訓練場所 見晴町駐車場
赤旗に向かって, 全校朝会隊形
- (3) 避難の伝達
 - ・ 避難本部（職員室）より, 教頭が放送を通じて各学級（担任）へ連絡する。

1 校内放送（10:40）

ただいま, 緊急地震速報が入りました。これから数秒で強い地震があります。生徒の皆さんは安全な姿勢をとり待機して下さい。（×2）

（一般的な揺れは数分続くので, 机の下に隠れたまま）

2 校内放送（10:44）

ただいまの地震で, 大津波警報が発令されました。生徒の皆さんは先生の指示に従って, 高い場所へ避難しなさい。（×2）

(4) 避難方法

校内	① 非常ベル（放送）により地震の発生を報知。 生徒は静かに放送を聞き、担任の指示により机の下に隠れる。 ② 2回目の放送の指示に従い、 <u>一斉に逃げる。</u> ※窓と戸は開けておく。 （① 1年、② 2年、③ 3年の3つのかたまりで） ③ 校舎内は“お” “か” “し” “ <u>も</u> ”を徹底し、上靴のまま校外へ避難する。
校外 （行程 1・2 km）	① 校舎を出たら、道路の右側に沿って行く。 ② コンビニを右折し、留萌方面へ国道沿いの右側歩道を駆け上がる。 ③ 見晴町の駐車場へは、国道を横断し避難する。 ④ 駐車場では、赤旗の前に整列する。 ⑤ 避難後、 <u>担任は生徒の人数、状態を確認し、教頭に報告する</u> （教頭から校長に最終報告）。 ⑥ 報告終了で、計時終了。 ⑦ 避難訓練集会 ⑧ 帰校は、1年生から歩いて同じ道筋を通る。

6 役割分担

1年引率	吉田 四宮 米澤 西元	雑巾 準備	中澤 渡邊(学校待機)
2年引率	廣野 中澤 佐藤	赤旗 設置	教頭(車輛移動)
3年引率	田岡 亀田 高橋 水戸 岩澤	計 時	教頭
遅延生徒引率	中村, 坂田, 山田, 伊藤	交渉関係 (消防・警察, 教育委員会) 飲み物用意	教頭
避難後 校内確認	渡邊 (学校待機) 磯谷 (学校待機)	緊急車両	なし
避難誘導 道路安全確認	警察, 交通安全指導員	全体観察	校長

7 事前指導

◎各担任は、事前に非常口や避難経路及び以下の災害発生時の行動を十分に指導する（学級指導で目的や必要性を考えさせる）。

- (1) 地震の恐ろしさについて知らせる（火災・津波・倒壊物・落下物など）。
- (2) 地震が発生したら、机の下等に隠れることを指導し、隠れ場所がない場合には、なるべく落下物から頭を守ることができるようにする。（窓側を避ける）
- (3) 事前に避難場所と避難方法の確認をする（“てんでんこ”の精神です）
自分の命は自分で守ることを指導する。

“てんでんこ”とは・・・

「てんでん」→めいめい、それぞれ、ばらばら こ→来い
つまり、『めいめい、ばらばらで（避難所まで）来い。』となります。

(4) 避難するときは、“お・か・し・も”の確認をする。

お→おさない

か→かけない

し→しゃべらない

も→もどらない

(5) 実際の災害時には、避難弱者（お年寄りや子どもなど）を支援する可能性があることを指導する。

8 事後指導

(1) 消防署長の講評等に基づき、避難状況や集合状況について反省させる。

(2) 日頃からの心構えが大切であることを伝える。

(3) 町内の場合、町民グラウンドが一時避難場所になっていることを知らせる。

9 関係機関

(1) 増毛町教育委員会・・・53－2427

(2) 増毛町消防署・・・53－2175

(3) 留萌警察署増毛駐在所・・・53－1036

(4) 増毛町役場税務町民課町民係・53－1112

10 その他

(1) 地震時は教室の窓・戸を開けたままにする。

(避難経路の確保のため)

(2) 津波の避難場所について

※その他（町内）

～学校にいない場合は、高いところに逃げるように指導する。

① 駅前の坂道を登り→町民グラウンド

② 役場前坂道を登り→町民グラウンド

③ なかよし坂を登り→町民グラウンド

④ 元エネルギー科学館横から坂を登り→明和園→町民グラウンド

⑤ 国道を留萌方面に登り、見晴町の駐車場→町民グラウンド

⑥ 国道を留萌方面に登り→旧国道入口→町民グラウンド

1 2 避難訓練避難場所・避難経路



